

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	46	学校名	茨城県立鉾田第二高等学校			課程	全日制		学校長名	大川 秀一						
教頭名	川又 淑		木下 英明			事務(室)長名	出頭 裕実									
教職員数	教諭	47	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	2	計	60
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	総合学科	96	185							96	185		7			
	普通科			91	144	94	119			185	263		12			
	家政科				38		31				69		2			

2 目指す学校像

生徒一人ひとりの能力、適性、進路等に応じたきめ細かな指導を展開し、主体性・創造性の育成と個性の伸長を図り、生涯にわたって自ら学び、相互に敬愛・協力し、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成及び健康で心豊かな人間を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路	以前は、少数の大学進学希望者と大多数の就職希望者に大別されていたが、ここ数年本校在校生にも価値観の多様化が見られるようになってきている。昨年度の進路状況を見てみると、290人の卒業生の内、大学・短大へ52人、専門学校へ112人、就職・在家庭が126人である。この現状を分析すると、より高い学歴志向がみられると同時に、より自分らしく自己の能力や適性を求めていることがわかる。このことから今後ますますこの進路に対応した指導体制が望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応する、幅広く柔軟な教育課程の編成・実施に努める。 ガイダンス機能の充実。 個別面談の充実。 学年、教科、各部との連携強化。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を促す指導の一環として、全教職員一丸のもと毎日登下校時に、立哨指導を実施し、挨拶の励行、遅刻防止、服装・頭髪の指導に努めている。生徒の指導としては、全体的にはよい方向に向かってはいるが、ただ女子のスカ・ト丈については、大半の者が短めである。また、退学者についても側面から指導の手立てを講じているため、年々減少の傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> 女子のスカ・ト丈の指導。 定期的な情報の交換に努め、日ごろから生徒指導について全教職員の共通理解を図る。 個に応じた指導の充実。 地域社会との連携。
学習	本校の平成15年度の学習実態調査によると、家庭学習において、平日、休日ともほとんどやらないが6～7割程度である。授業については、ときどき集中できないが約5割程度という状況である。この結果が示すように、ここ数年、特に就職・在家庭の中には、個性を最大限に生かして進路選択をした者もいるが、少なからず在学中に目的意識がはっきりしないまま卒業をしてしまった者もいるものと考えられる。学習意欲を促すための指導・工夫が急務である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや達成感を体験させる学習を可能にする。 教育内容の精選・重点化に努める。 習熟度別学習、少人数制授業による個に応じた学力の向上。 家庭学習の定着。 実的な知識や技術の習得・資格取得の奨励。

4 中期的目標

- ・生徒一人ひとりの習熟度に合った学習活動の展開と、個性を最大限に伸ばす教育の充実を図る。
- ・多様な進路の希望に、柔軟な教育課程の編成に努める。
- ・生涯設計の基礎を築き、より地域を信頼される生徒を育成する。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	自己を見つめながら自我を確立し、人間としての在り方生き方について自覚を深め、豊かな人間性を育む。	基礎・基本の徹底。 ガイダンス機能の充実。 生活・学習習慣の確立。 習熟度別学習、少人数制授業の実施。 「産業社会と人間」の実施。	
2年次	生徒一人ひとりに対して、自分の興味・関心や進路に基づく主体的な学習を促し、個性を最大限に伸ばさせる。	系統的な学習、進路に即した学習の充実。 主体的・自発的学習態度の育成。 体験学習や社会人講師により、多様な教育内容を通じた地域との連携。 情報活用能力の育成。 自他の文化・伝統を尊重する態度の育成。 「課題研究」の実施。	
3年次	生涯設計の基礎理念を育み、進路及び自己実現を図る。	実践的学習・体験的活動の重視。 専門技術の習熟や職業資格の取得を目指すための学習内容の充実。 コミュニケーション能力の育成。 勤労・奉仕活動への積極的な態度の育成。 「課題研究」の実施。	